

2022年3月期第3四半期 決算説明資料

2022年2月24日

東証1部: 6333



株式会社 帝国電機製作所

1. 2022年3月期第3四半期決算
2. 2022年3月期業績見通し
3. 環境経営への取組み
4. 参考資料



世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

1. 2022年3月期第3四半期決算



株式会社 帝国電機製作所

2022年3月期第3四半期決算概要



株式会社 帝国電機製作所

(百万円)	2021年3月期 第3四半期	構成比 (%)	2022年3月期 第3四半期	構成比 (%)	増減	増減率 (%)
売上高	14,460	100.0	15,925	100.0	+1,464	+10.1
売上原価	9,073	62.7	9,483	59.5	+409	+4.5
売上総利益	5,386	37.3	6,442	40.5	+1,055	+19.6
販売費及び一般管理費	3,692 (4,081)	25.5 (28.2)	4,629	29.1	+936 (+548)	+25.4 (+13.4)
営業利益	1,693 (1,305)	11.7 (9.0)	1,812	11.4	+118 (+507)	+7.0 (+38.9)
経常利益	1,817 (1,428)	12.6 (9.9)	2,111	13.3	+293 (+682)	+16.2 (+47.8)
親会社株主に帰属 する四半期純利益	1,825 (970)	12.6 (6.7)	1,404	8.8	▲420 (+434)	▲23.1 (+44.7)

※2021年3月期第3四半期において、中国の修理子会社の清算に係る未払税金取崩の影響(販売費及び一般管理費 ▲388百万円、法人税等 ▲466百万円)を除いた額を括弧書きで記載しております。

増収増益

売上高

- ・ポンプ事業は日本、東南アジア等の回復が遅れているものの、主に中国のケミカル向けが好調であったことから増収。
- ・収益認識基準の見直しによる売上への影響額▲235百万円（内、電子部品事業への影響▲109百万円）

営業利益

- ・ポンプ事業は、前年同期における中国の修理子会社2社清算による未払税金（源泉税、増値税分）取崩しによる388百万円のプラス要因の反動減があったものの、中国、インドの売上増加や為替影響等により増益。
- ・収益認識基準の見直しによる営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響額▲43百万円

親会社株主に帰属する 四半期純利益

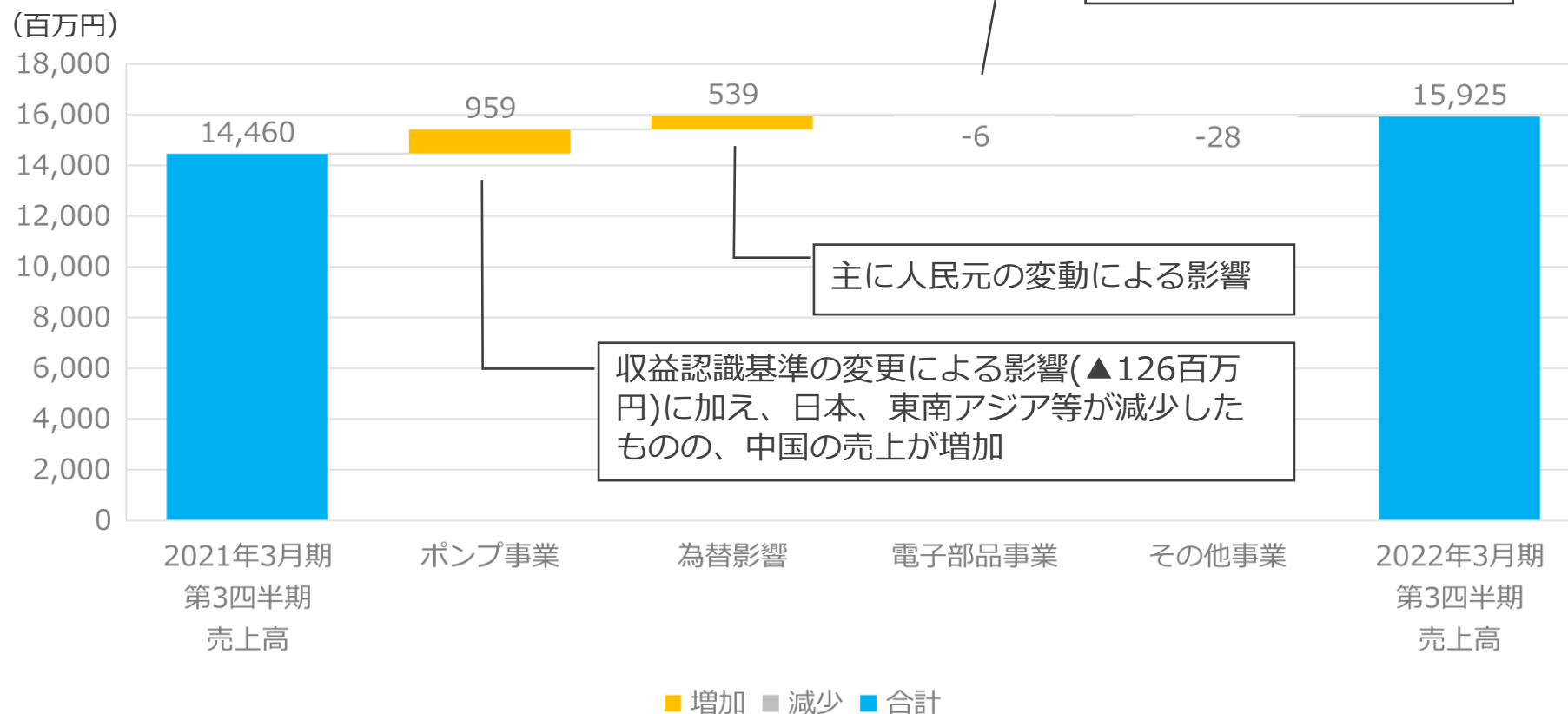
- ・営業利益の増加に加え、為替差益等により経常利益が前年同期比293百万円増加したものの、前年同期における中国の修理子会社2社清算による未払税金（企業所得税分）取崩しによるプラス要因466百万円の反動減等もあり、四半期純利益は前年同期比減少。

売上高増減分析



株式会社 帝国電機製作所

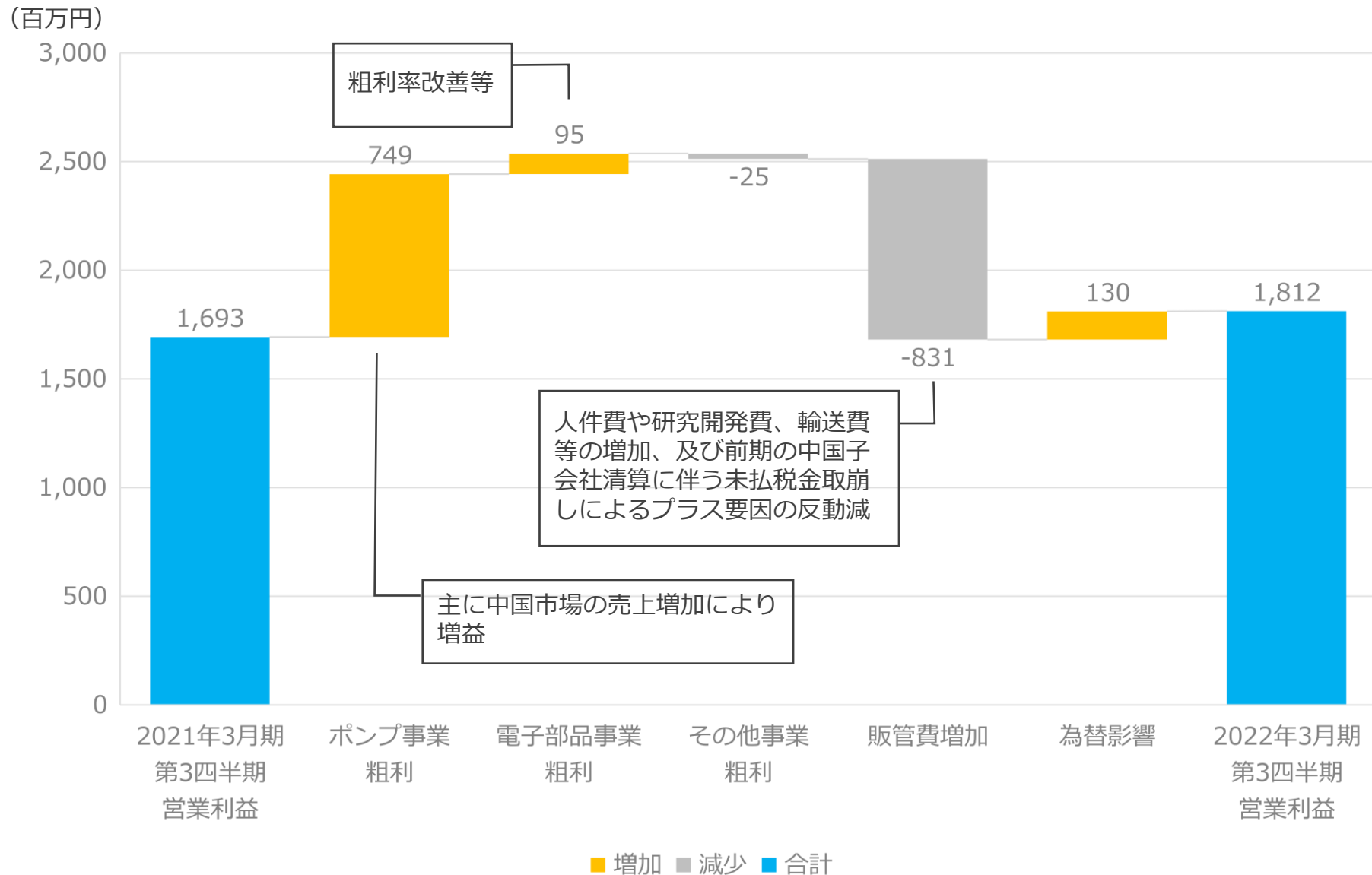
期中平均レート推移	2021年3月期第3四半期	2022年3月期第3四半期
U S ドル	107.6円	108.6円
人民元	15.4円	16.8円
ユーロ	120.9円	129.9円



営業利益増減分析



株式会社 帝国電機製作所



種類別セグメント（売上高・営業利益）



株式会社 帝国電機製作所

(百万円)		2021年3月期 第3四半期	2022年3月期 第3四半期	増減	増減率
ポンプ事業	売上高	13,022	14,522	+1,499	+11.5%
	営業利益 (営業利益率)	1,736 (13.3%)	1,784 (12.3%)	+48	+2.8% (▲1.0%)
電子部品事業	売上高	1,109	1,103	▲6	▲0.6%
	営業利益 (営業利益率)	▲101 (－%)	▲7 (－%)	+93	－ (—)
その他	売上高	328	299	▲28	▲8.7%
	営業利益 (営業利益率)	58 (17.8%)	35 (11.8%)	▲23	▲39.6% (▲6.0%)
合計	売上高	14,460	15,925	+1,464	+10.1%
	営業利益 (営業利益率)	1,693 (11.7%)	1,812 (11.4%)	+118	+7.0% (▲0.3%)

ポンプ事業 所在地別売上高



株式会社 帝国電機製作所

- 日 本・・・前期後半からの受注減速の影響を受け減収だったものの、輸出向けは回復基調
- 欧 米・・・米国は前期堅調であった原子力向けの反動減あるが、冷凍機向けやメンテナンスが増加したことにより増収
- アジア・・・中国はケミカル向けを中心に好調に推移していることに加え、前期1Qのロックダウンによる反動増もあり増収

(百万円)		2021年3月期 第3四半期	2022年3月期 第3四半期	増減	増減率
日本	売上高	5,369	4,854	▲514	▲9.6%
欧米	売上高	3,249	3,472	+222	+6.8%
アジア	売上高	4,403	6,195	+1,791	+40.7%
合計		13,022	14,522	+1,499	+11.5%

※販売元が基準(外部顧客に対する売上でセグメント間は除く)

●主にケミカル機器用、冷凍機・空調機器用、メンテナンスが増加

(百万円)	2021年3月期 第3四半期	比 率 (%)	2022年3月期 第3四半期	比 率 (%)	増減	増減率 (%)
ケミカル機器用	6,828	52.4	7,642	52.6	+814	+11.9
冷凍機・空調機器用	1,347	10.3	1,579	10.9	+231	+17.2
電力用（車両用）	321	2.5	393	2.7	+72	+22.4
電力用（地上用）	437	3.4	418	2.9	▲18	▲4.3
定量注入機器	312	2.4	345	2.4	+32	+10.4
その他ポンプ	193	1.5	143	1.0	▲50	▲25.9
メンテナンス	3,582	27.5	4,000	27.5	+417	+11.7
合計	13,022	100.0	14,522	100.0	+1,499	+11.5

●ポンプ受注は中国、米国が好調で他地域も回復が継続している

(百万円)	2021年3月期 第3四半期		2022年3月期 第3四半期		増減	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高	受注高	受注残高
ポンプ事業	13,057	8,336	17,455	10,635	+4,398	+2,298
電子部品事業	1,124	125	1,092	153	▲31	+28
その他	368	128	242	86	▲126	▲41
合計	14,550	8,591	18,790	10,875	+4,240	+2,284

貸借対照表のポイント



株式会社 帝国電機製作所

(百万円)

資産の部	2022年3月期 第3四半期	前期末増減
流動資産	26,515	+ 1,631
現預金	13,830	+ 1,254
受取手形、売掛金 及び契約資産 (※1)	7,585	—
製品・仕掛品 原材料・貯蔵品	5,128	+ 821
固定資産	10,790	+43
有形固定資産	8,566	+ 198
無形固定資産	222	▲157
投資その他の資産	2,001	+ 2
資産合計	37,306	+ 1,674

負債の部	2022年3月期 第3四半期	前期末増減
流動負債	6,642	+926
支払手形・ 買掛金	2,614	+ 745
短期借入金	380	+ 60
未払法人税等	309	+ 10
その他	3,338	+109
固定負債	1,198	+ 118
純資産	29,465	+ 630
(内自己株式) (※2)	(▲1,727)	(▲726)
負債・純資産合計	37,306	+ 1,674

※1 当第1四半期連結会計期間より収益認識会計基準等を適用しており、前連結会計年度については新たな表示方法による組替えを行っていないため前期末増減金額を記載しておりません。

※2 2021年3月8日開催の取締役会決議に基づき、当第3四半期連結累計期間において自己株式553,700株の取得を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において自己株式が726,946千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が1,727,866千円となっております。



世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

2. 2022年3月期業績見通し



株式会社 帝国電機製作所

TEIKOKU

業績見通しの前提条件（業績修正後）



株式会社 帝国電機製作所

セグメント別		
ポンプ事業	日本	・輸出は回復傾向だが、国内は当初予想よりも減収を見込む。 ・利益は、米国向けの輸出増加等により当初予想よりも増益を見込む
	欧米	・米国において需要回復が想定よりも早く、また円安もプラスに寄与していることから、当初予想よりも増収増益を見込む
	アジア	・中国経済の回復により主要顧客であるケミカル業界の設備投資が継続しており、また円安もプラスに寄与していることから、中国が牽引し当初予想よりも増収増益を見込む
電子部品事業		・通期黒字化を見込むも、半導体不足による自動車減産や部品不足による生産停滞の影響が想定以上であるため、当初予想よりも減収減益を見込む

※ インドを除く海外現地法人の決算期は12月（インドは3月）

計画為替レート(期中平均)

(修正予想レート)1US \$ =109.9円、1€=129.9円、1元=17.0円、1KRW=0.09円、1INR=1.5円
 (当初予想レート:・ 1US \$ =107.0円、1€=128.0円、1元=16.5円、1KRW=0.09円、1INR=1.5円)
 (前期実績レート:・ 1US \$ =106.8円、1€=121.9円、1元=15.5円、1KRW=0.09円、1INR=1.4円)

今期計画（業績見通し）



株式会社 帝国電機製作所

業績上方修正理由

主力のポンプ事業で、主に中国、米国において需要回復が堅調であることから売上高が当初予想を上回る見込みとなったことや、利益面については、ポンプ事業における米国、中国の売上増加や為替影響、日本からの米国向け輸出増加、中国の採算性の改善等が要因となり当初予想を上回る見込みとなった。

(百万円)	2021年3月期 (実績)	構成比 (%)	2022年3月期 (当初予想)	2022年3月期 (修正予想)	構成比 (%)	前期比	当初 予想比
売上高	19,910	100	20,900	21,930	100	+2,020	+1,030
売上原価	12,422	62.4	12,960	13,000	59.3	+578	+40
売上総利益	7,487	37.6	7,940	8,930	40.7	+1,443	+990
販売費及び 一般管理費	5,224 (5,615)	26.2 (28.2)	6,260	6,550	29.9	+1,326 (+935)	+290
営業利益	2,262 (1,871)	11.4 (9.4)	1,680	2,380	10.9	+118 (+509)	+700
経常利益	2,513 (2,122)	12.6 (10.7)	1,830	2,730	12.4	+217 (+608)	+900
親会社株主 に帰属する 四半期純利益	2,324 (1,464)	11.7 (7.4)	1,280	1,890	8.6	▲434 (+426)	+610

※ 2021年3月期(実績)において、中国の修理子会社の清算に係る未払税金取崩の影響(販売費及び一般管理費▲391百万円、法人税等▲469百万円)を除いた額を括弧書きで記載しております。

種類別セグメント見通し（売上高・営業利益）



株式会社 帝国電機製作所

(百万円)		2021年3月期 (実績)	2022年3月期 (当初予想)	2022年3月期 (修正予想)	(上期実績)	(下期計画)	当初 予想比
ポンプ事業	売上高	17,895	19,000	20,070	9,168	10,902	+1,070
	営業利益 (営業利益率)	2,237 (12.5%)	1,590 (8.4%)	2,320 (11.6%)	1,026	1,294	+730
電子部品事業	売上高	1,584	1,620	1,520	761	759	▲100
	営業利益 (営業利益率)	▲41 (-%)	70 (4.3%)	20 (1.3%)	3	17	▲50
その他	売上高	430	280	340	248	92※	+60
	営業利益 (営業利益率)	67 (15.6%)	20 (7.1%)	40 (11.8%)	32	8※	+20
合計	売上高	19,910	20,900	21,930	10,179	11,751	+1,030
	営業利益 (営業利益率)	2,262 (11.4%)	1,680 (8.0%)	2,380 (10.9%)	1,063	1,317	+700

※ブレーキモータが上期で生産終了したため、下期は上期に比べ売上・利益が減少する見込み

ポンプ事業 所在地別売上高見通し



株式会社 帝国電機製作所

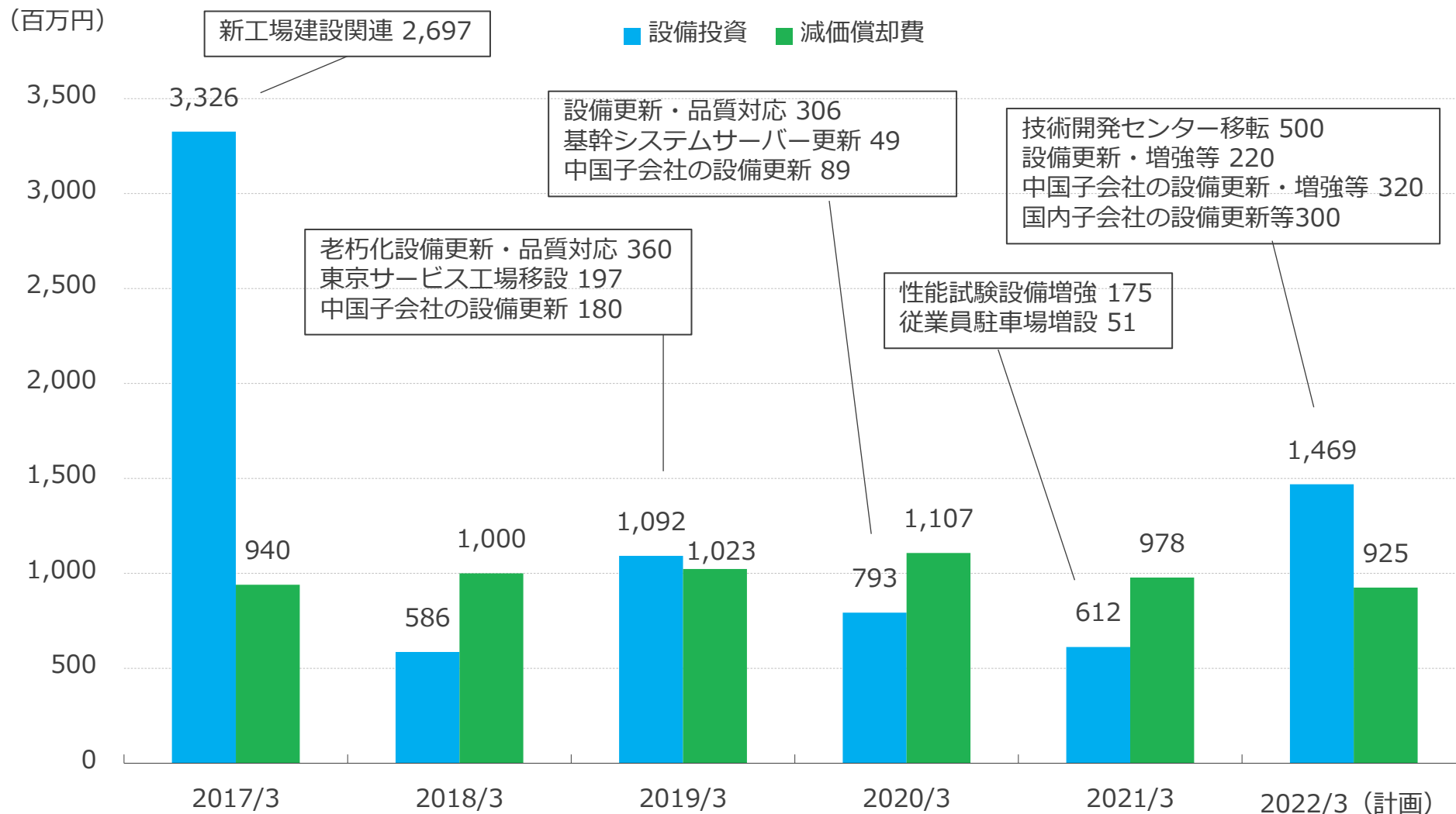
(百万円)	2021年3月期 (実績)	2022年3月期 (当初予想)	2022年3月期 (修正予想)			当初 予想比
				(上期実績)	(下期計画)	
日本	6,956	6,580	6,400	3,212	3,188	▲180
欧米	4,460	4,230	4,930	2,286	2,644	+700
アジア	6,477	8,190	8,740	3,669	5,071	+550
合計	17,895	19,000	20,070	9,168	10,902	+1,070

※販売元が基準(外部顧客に対する売上でセグメント間を除く)

設備投資・減価償却費計画



株式会社 帝国電機製作所



基本方針

株主に対する利益還元は経営の重要課題のひとつ。
 拡大する事業機会を迅速・確実に捉える為に必要となる株主資本の水準を保持。
 なお、2022年3月期の本決算公表時を目途に資本政策の見直しを行う予定。

配当

安定配当に留意しつつ、連結配当性向30%以上を目標

自己株式取得

市場環境や資本効率等を勘案し、必要に応じて検討

	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期 (予定)
年間配当金	36円	36円	※50円
配当性向(連結)	※22.5%	※30.5%	※50.9%

※ 2019年12月に総額117百万円の自己株式取得

※ 2021年3月9日から2021年10月20日に8億円（80万株）上限の自己株式取得を実施

※ **2022年2月9日に8億円（80万株）上限の自己株式取得を発表。今回の自己株式の取得が完了した後、すみやかに発行済株式総数の概ね5%を残して消却する予定**



世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

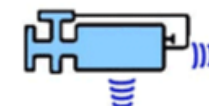
3. 環境経営への取組み



株式会社 帝国電機製作所

主力製品であるキャンドモータポンプ

- ・ 完全無漏洩であることから、環境負荷が小さい
- ・ 運転音が静かであるため、騒音を低減できる

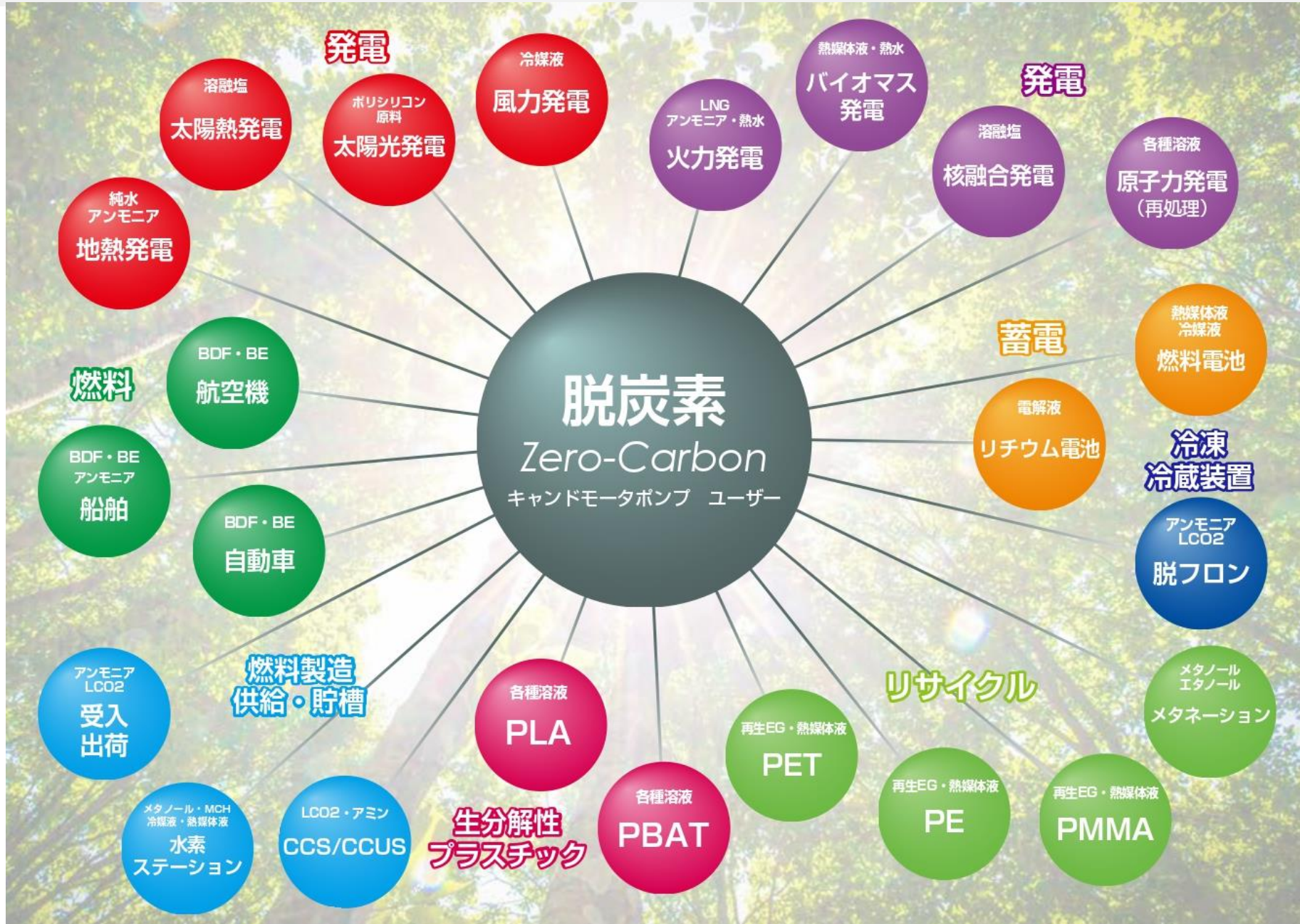


環境に優しい製品の製造・販売で
地球環境悪化防止に貢献

ESGの積極的推進（Zero-Carbonをビジネスチャンスへ）



株式会社 帝国電機製作所





世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

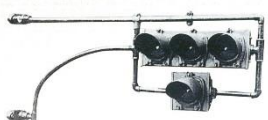
4. 参考資料



株式会社 帝国電機製作所

当社は完全無漏洩構造のキャンドモータポンプを主力事業として、約半世紀にわたって事業を展開しています。

世界各地の石油化学プラント、ファインケミカル、医薬・食品業界、原子力発電所、変電所等様々な分野で活躍し、数多くの実績と信頼を築いています。



1939年
帝国電機製作所
設立

1958年
A型モータ
を試作

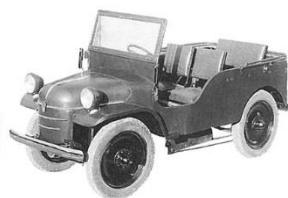
1991年
初の海外拠点
となる
TEIKOKU USA
INC. を設立

2003年
TEIKOKU USA
INC.が米国クレ
イン社のケミポ
ンプ事業部を買
収



2017年
本社工場
リニューアル

1947年
テイコク製電気
自動車を開発



1960年
キャンドモータ
ポンプの開発に
成功

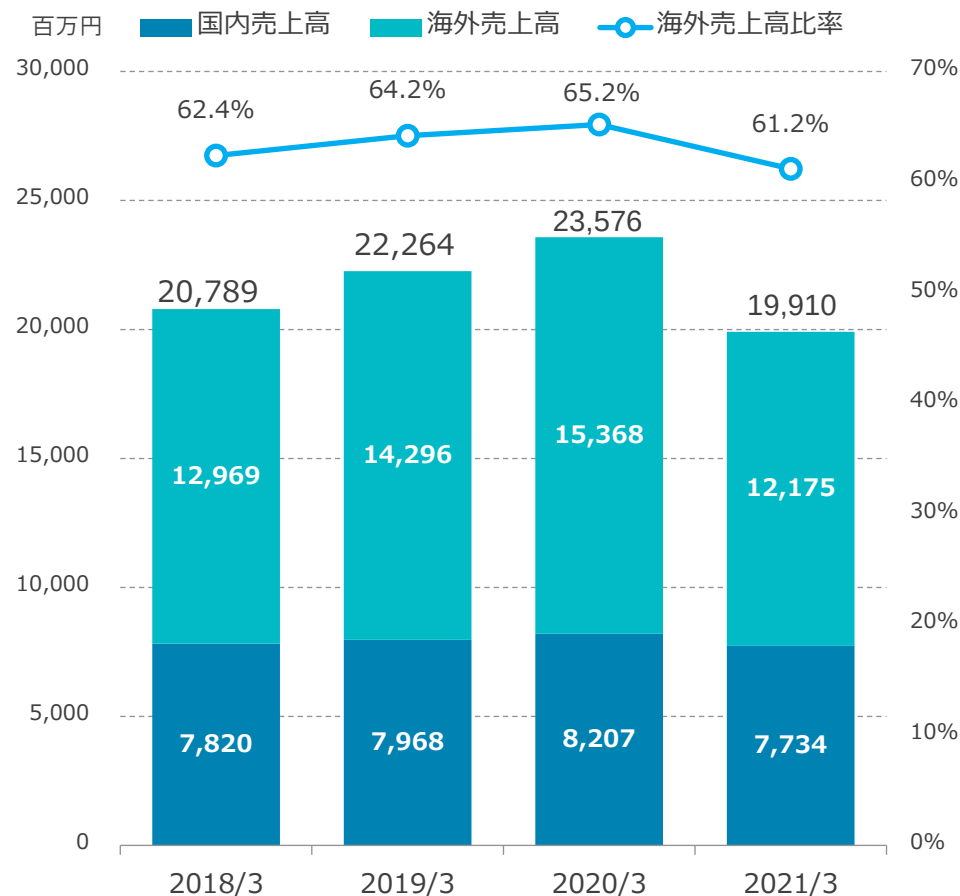


1994年
中国に大連帝国
キャンドモータ
ポンプ有限公司
を設立

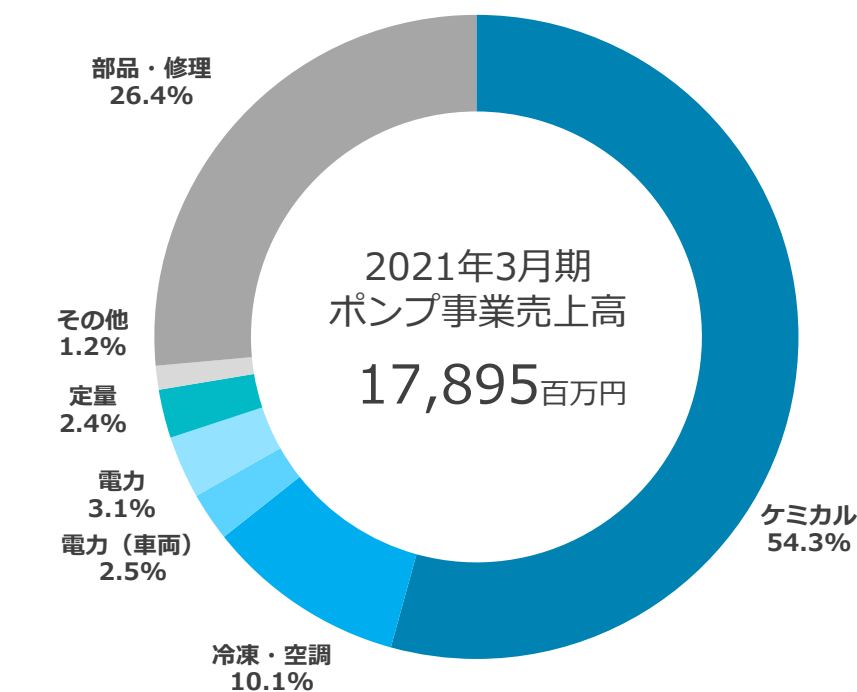
2006年
東京証券
取引所市
場第一部
に上場

2017年
インドのHYDRODYNE
(INDIA)PVT. LTD. を子会社化
(現・HYDRODYNE
TEIKOKU(INDIA)PVT.LTD.)

国内外売上高比率の推移



ポンプ用途別売上比率



- 売上高の約90%は、「キャンドモータポンプ」を主軸とする「ポンプ事業」

過去業績の推移

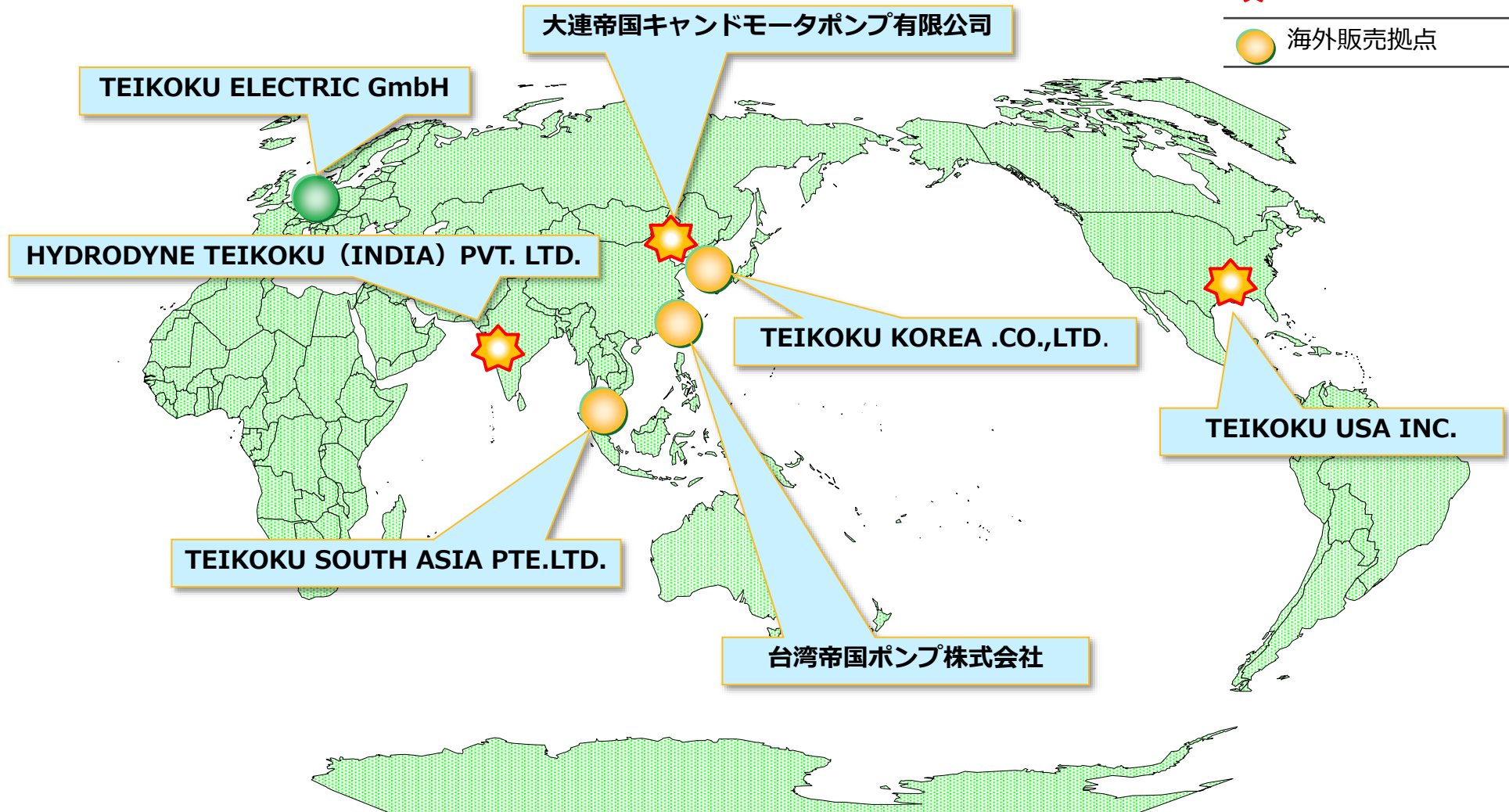


株式会社 帝国電機製作所

	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期
売上高 (百万円)	19,311	20,789	22,264	23,576	19,910
営業利益 (百万円)	1,666	2,300	2,025	3,750	2,262
営業利益率 (%)	8.6	11.1	9.1	15.9	11.4
ROE (%)	4.9	6.1	4.1	12.2	8.4
ROA (%)	5.4	7.1	6.6	11.1	7.1
配当性向 (%)	26.4	26.8	46.7	22.5	30.5
受注高 (百万円)	18,146	21,723	24,893	22,234	19,418
受注残高 (百万円)	6,339	7,273	9,843	8,501	8,010

 海外製造・販売拠点

 海外販売拠点



完全無漏洩という特徴を活かし、石油化学プラント等様々な分野で活躍しています。



電動油ポンプ

変圧器冷却用に使用されています。変電施設の他、すべてのJR新幹線に搭載されています。



キャンدمータポンプ

国際規格API685に準拠したキャンدمータポンプ。高温・高圧に対する耐久性にも優れています。



定量ポンプ

一定量の液体を正確に移送可能なポンプ。用途範囲が広く、薬品業界等で活躍しています。



大型冷凍機・空調機の冷媒の移送においても、当社のキャンدمータポンプが採用されています。



かくはん機

各種槽内の液体を効率よく攪拌でき、石油化学業界のほか、食品業界等でも活躍しています。



キャンドモータポンプの特徴



株式会社 帝国電機製作所

一般的なポンプとキャンドモータポンプの違い

一般的なポンプはポンプとモータを別々に製造し、それをカップリングして使用するため、回転軸を通したケーシングの隙間から、取り扱い液が外部へ漏れてしまいます。

しかし当社のキャンドモータポンプは、ポンプとモータを一体化し、取り扱い液が密閉される構造であるため、完全無漏洩であることが特徴です。

キャンドモータポンプの優れた特徴

1 完全無漏洩



取り扱い液が外部に漏れるおそれがないので、人体に有害な液、爆発や引火しやすい液、高価な液、腐食性のある液などの取り扱いに適しています。

2 外気との接触なし



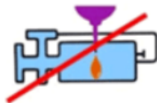
外気を吸い込まないので、真空系での運転、外気に触れると変質する液などの取り扱いに適しています。

3 幅広い圧力・温度に対応



軸シールがないので、系の圧力が高い、高温液、低温液、高融点液などを取り扱うポンプの製作が容易です。

4 潤滑油いらす



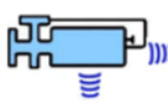
潤滑油を必要としないので、取り扱い液の汚染がなく、給油の手間が不要です。

5 小型軽量で省スペース



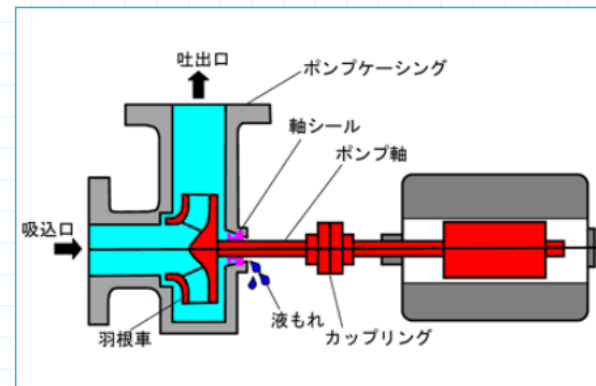
モータ軸がポンプ軸を兼ねているので、小型軽量で設置場所をとらない、分解点検が容易です。

6 静かな運転音



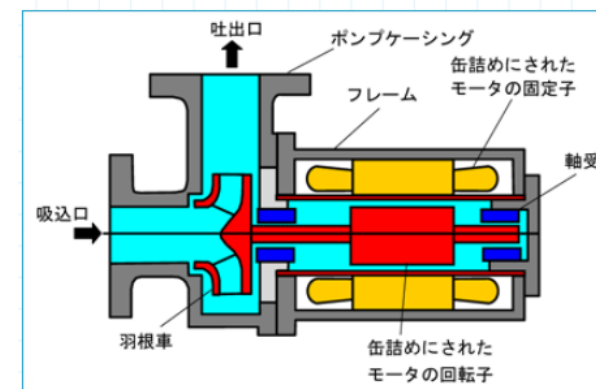
モータを冷却するファンがないので運転音が静かです。

一般的なポンプ

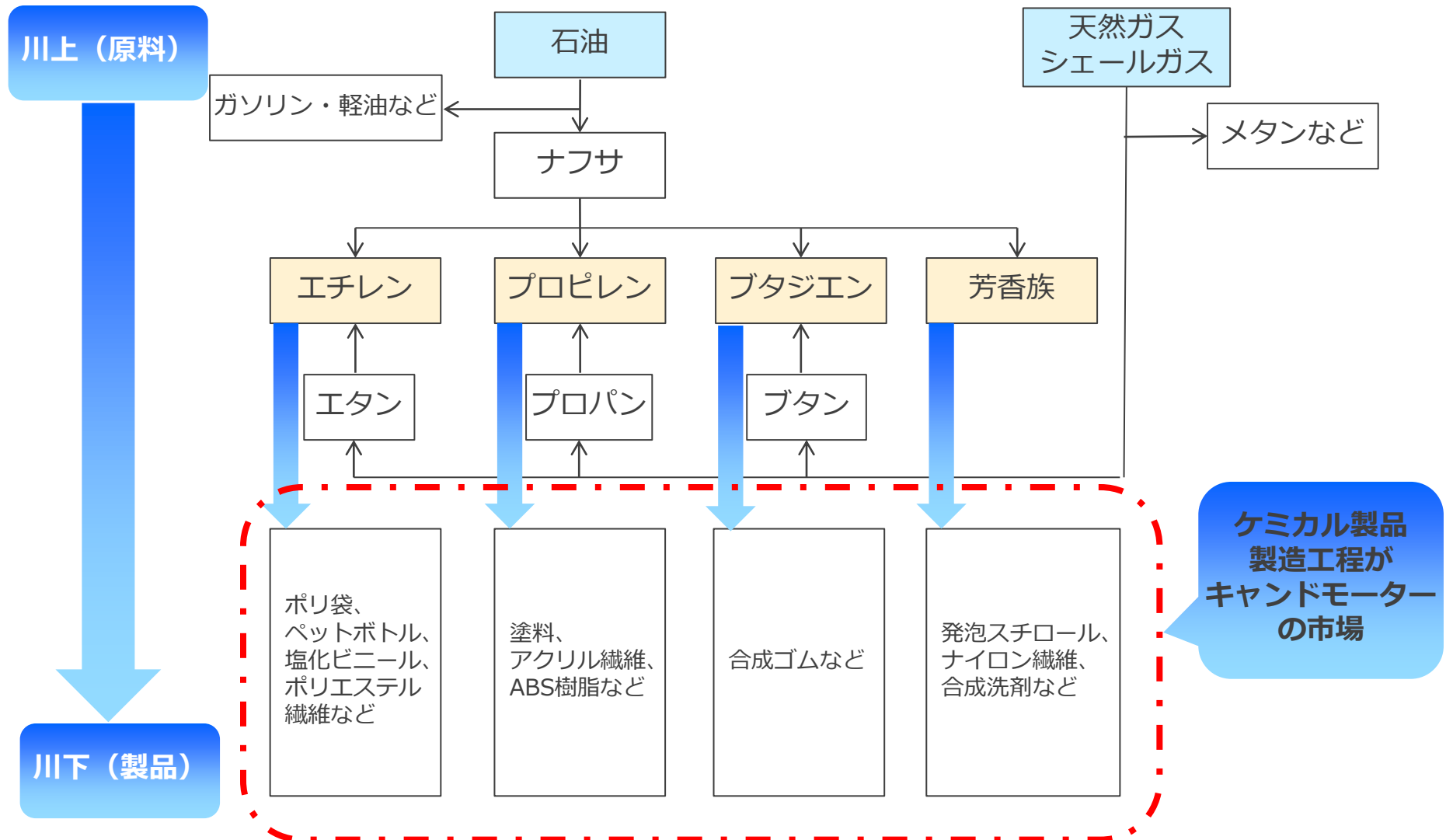


軸シール部から漏洩してしまいます。

キャンドモータポンプ



ポンプとモータを一体化し、密閉された構造であるため漏洩しません。





モータジェネレータ基板

電子部品事業

- 100%子会社平福電機製作所の事業
- 電子部品のプリント基板表面への実装作業中心
(自動車用・二輪車用85%、産業機械用15%)

主力の車載向けに一層注力 (自動車のシステム化・EV化対応)

- 統合ECU (ワイパーや照明等の機能制御機器)
- EPS (電動パワーステアリングシステム)
- SSU (スマートキーレスエントリー)
- モータジェネレータ (車両用発電電動機)
- EV向けモータの回転センサー

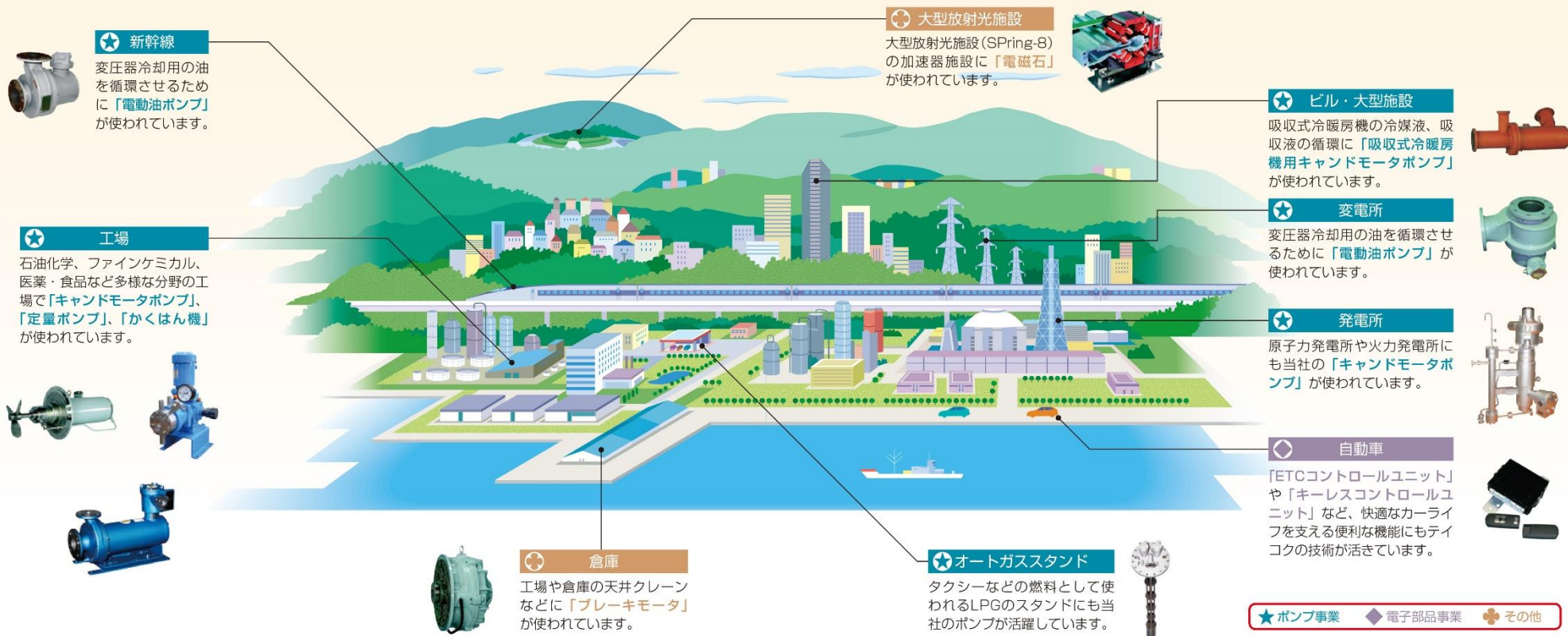
産業機械向けの拡充 (省力化投資拡大による需要増)

- シーケンサ (PLC) 用電源基板・表示器

特集

くらしの中のティコク

当社の製品は、設備や装置の動力部分に使われているため、一般に目に触れる機会はあまりないと思います。しかし、何気なく利用しているビルや交通機関、また、工場、発電所などにも、当社製品は幅広く活躍しており、快適で便利な暮らしや社会をしっかりと支えています。



本資料は当社をご理解いただくために作成されたものであり、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保障を与えるものではありません。

また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわれないうようお願いいたします。